赤ちょうちん

（655）

我が家

入谷駅 徒歩1分

【台東・書記・吉田啓一通信員】支部会館の近くに居酒屋「我が家」があります。お店は国道4号線に面した住宅街のビルの地下1階にあり、我が家の看板が目印で丸8年を迎えました。

お店の木製の引き戸を開けると、店内全体が見渡せます。少しアジアンチックで、照度もいい感じ。右側には堀こたつ形式のテーブル席が4つあり、左側には7席のカウンターがあり、その上には炉端形式で色とりどりのおつまみが並び食欲がそそられます。

少しアジアンチックな雰囲気の店内

オススメは魚料理

店名のようにお気軽に

席に着くなり「何飲む」とママの声が聞こえてくる。「我が家」の店名は自分の家のように気軽に寄れるようにとつけたそうで、1回行けば気軽に寄れる雰囲気。お客の8割がサラリーマンで、年齢層も幅広く女性客も多く来ます。

お店の一大イベントして恒例となったゴルフコンペと屋形船での懇親会を毎年実施しています。コンペは40人程が参加し、屋形舟も30人と、年々増えています。

お勧めは魚がメインですが、牛すじ煮込み、肉じゃが等も好まれ、サンドイッチ等もあり、とてもリーズナブルな料金となっています。珍しいのはホッピーの赤。そして釣り好きの客が持ってくる、釣りあげたサシミに遭遇すれば超ラッキーとなります。隣接支部の組合員も常連客となっています。

《メニュー》

ビール（大瓶）	580円
サワー・酎ハイ	350円
赤ホッピーセット	500円
肉じゃが（大）	580円
牛すじ煮込み（大）	850円

営業時間17時～23時
定休日　日曜日
台東区入谷1―27―5
共栄入谷ビルB1
☎3875―2507

あかんね！

のかみみず（351）

ナイスさま

おにぎり

鎌田浩毅は阪神・淡路大震災の活断層の現地調査で、焼け出された被災者からおにぎりを指し出され、「ご苦労様。がんばって調査、研究して」と、ねぎらいの言葉をかけてもらった。

神戸が活断層に囲まれており、いつ地震が来てもおかしくないと、鎌田ら研究者は市民に伝えてきたはずだったが、市民は関西に大地震は来ないと信じていた。鎌田はおにぎりをきっかけに、市民に「伝える技術」の研究に進んでいった。

忘れえぬこと

高校生の活躍に感動

原水禁で2度長崎へ

塗装　野村　和好

真夏のこの時期、私は長崎の原水爆禁止世界大会に、2度それぞれ支部代表として、ブロック代表として参加させて頂きました。私が行った2回とも、雲一つない抜けるような晴天で、今年の東京の夏と同じようでした。

長崎駅でバスを降り、私は日陰のない長い坂道をてくてくと会場の県立総合体育館に赴きました。原爆投下の朝も同じような天気であったと聞いていました。

到着した会場の外には、夏服の高校生たちがてんこ盛り状態で、その白いシャツのキラキラ光る様は目に焼き付くようでした。多くの生徒たちが見知らぬ私たちに、2度と繰り返してはいけない、あの惨劇を、祖父母から聞き及んだ言葉を私たちに投げかけました。

市内の各地で開催された2日目の分科会でも、生徒たちの目を見張るような活躍がありました。堂々と自分の意見を述べ、活動報告を発表する様子、戦後に生まれ、ただ「ぼーっと生きてきた」自分に対して、身を恥じる思いしかありません。

自分たちが感じた事を長崎の先人のように、あとに続く人々に積極的に言い伝えることが肝要だと今強く感じています。どんな馬鹿げた国会運営をしている国家であっても、決して諦めない何かがこの国の人々にはあります。

ジョン・レノンが殺害される数日前、日本の音楽評論家がジョンにインタビューした際の音声があります。「日本には、昨年行けなかったが、今年は絶対に行く。平和な日本が恋しい」と。（品川）

詰将棋

持駒　金　金

6	5	4	3	2	1	
						一
					馬	二
						三
		角	歩	銀	王	四
						五
						六

チョット一服（973）

6月に都道府県ボクシング連盟の有志による「日本のボクシングを再興する会」が山根明会長に対する「退会要求書」へ賛同を募っていたそうだ。「退会要求書」には「判定の不当操作」「関係者へのパワハラ」「不正経理」などの証拠があるとしていたという。

その後、リオ五輪に出場していた成松大介選手への助成金の不正流用が明らかになり、これが山根会長の指示によるものとされた。山根会長への忖度も取りざたされている。一連の疑惑について真実が明かされないと、アマチュアボクシングの選手は気持ちよくプレーができないと思うのだが、どうであろうか。

本ほん

手塚マンガで憲法九条を読む

手塚 治虫
解説 小森 陽一

作品は反戦平和を願う「紙の砦」

今や世界に誇れる文化となった日本の漫画。その礎を築いた手塚治虫は、藤子不二雄・石ノ森章太郎・赤塚不二夫などをはじめとする多くの漫画家に影響を与え、「漫画の第一人者」、「漫画の神様」とも称された。

映画の手法を取り入れるなど数々の新しい表現方法で、ストーリー漫画を魅力的な芸術の高みまで引き上げ、『鉄腕アトム』『ブラック・ジャック』などのヒット作を次々と発表し、死に際の病院のベッドでも医師や家族の制止を振り切り漫画を描き続け、1989年に60歳で生涯を終えた。

この本は、手塚の珠玉の7篇を、全国「九条の会」事務局長を務める小森陽一が分かりやすく解説。巻頭に日本国憲法の前文と戦争の放棄を謳った第九条が掲げられ、「戦争の本質を描く」3作、「九条の下で生きる」4作と続いている。

医学の道を志して医師免許を取得、のちに医学博士にもなった手塚が描く作品は、自らの戦争体験によってもたらされた「生命の尊厳」「反戦」が大きなテーマとして貫かれている。

掲載作品の一つである『紙の砦』は、手塚自身をモデルにしたもので、出版統制令で漫画が本屋から消えた戦時中の話。漫画家になりたかった主人公は、軍需工場で隠れて漫画を描いてはトイレに貼る。絵を破られ、罵られ、殴られても描きつづける…。

敗戦の報を聞き、「これで自由にマンガが描ける」と大喜びした手塚らしさが出ている。細かいものも含めると軽く700は超えるといわれる手塚作品は、まさに反戦平和を願う「紙の砦」といえよう。（子どもの未来社・i620円税込）